

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

September 2021 vol.89

September						
S	M	T	W	T	F	S
				1	2	3
				4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

◆ 名和小学校（友情の塔）

所在地：東海市名和町

交通：名鉄常滑線「名和」駅 南 約 1km

昭和 34（1959）年の伊勢湾台風では、知多半島も大きな被害の発生した地域のひとつで、半田市で 290 人、東海市で 143 人の死者・行方不明者が発生しています。東海市北部、現在の名和町周辺の台風の際の様子が、名和小学校 HP の「伊勢湾台風とは」にまとめられています。

名和町では、9 月 26 日午後 4 時頃から風雨が強くなり始め、午後 8 時頃から小学校に避難する人が現れ始めました。そして、午後 9 時 30 分頃、天白川の両岸などの堤防が崩れ、海・川の水に襲われ大洪水となります。強い風と雨は午後 11 時頃まで衰えることなく続き、30 戸以上の住家が水没し、100 人以上が行方不明となりました。

翌 27 日からは、救援が始まり、炊き出しや給水車による給水などが行われ、自衛隊の救出活動も始まりました。29 日になり、犠牲になった名和小学校の児童は全校 1,154 人のうち、25 人であることがわかり、10 月 1 日には、名和町を含む当時の上野町全体で 140 人の死者・行方不明者となったことが明らかになりました。この頃からは徐々に復旧のペースが上がり、学校には電気が通じ、名鉄も聚楽園駅まで運転を再開します。

一方、10 月中旬になっても堤防の締切はできず、水はなかなか引きませんでした。10 月 12 日からは、潮が引く間の 2 時間程度だけ授業を行う形で、学校が再開されます。16 日には、名和小学校以上の被害を受けた、名古屋市南区の白水小学校、千鳥小学校からの転入児童の受け入れも

行っています。その後、26 日にはようやく通常の授業が再開され、11 月 5 日には、堤防の一次工事が終わりますが、この時点でもまだ、国道 247 号線には 30cm ほどの水が残った状態でした。結局、水がすべて引いたのは 11 月 28 日で、2 か月間、湛水状態であったことがわかります。

さて、大切な 25 名の友だちを亡くした名和小学校の子どもたちは、「何とか亡くなった友だちの魂をなぐさめることはできないか」と考え、最初は写真や花を机に供えたりしていました。その後、職員室の前の廊下に「友情の箱」と名付けた箱を置いて、みんなでおこづかいを出し合って募金を始めました。この「友情の箱」がきっかけとなって、全国から激励の手紙や寄付金が寄せられるようになり、やがて伊勢湾台風遭難学童の像建設委員会が作られて、「友情の塔」の建設が始まります。塔は伊勢湾台風から 2 年後の昭和 36 年 9 月 25 日に完成しました。裏面の銘板には、子どもたちの友だちを思う気持ちが形となり、塔が出来上がった経緯と、亡くなった児童の名前が刻まれています。



募金当時の様子と友情の箱（名和小学校 HP より）



名和小学校では、現在でも、毎年 9 月 26 日に全校児童が参加して、当時の様子を知る方の話を聞き、黙とうを捧げる「友情の塔の日」が開催されており、亡くなった友だちの冥福をお祈りするとともに、災害の記憶が受け継がれるよう努められています。



友情の塔



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していたくとも、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

◆名和小学校の周辺には…

● 北犬山公会堂

所在地：東海市名和町

交通：名鉄常滑線「名和」駅 南 約 1.1km

北犬山公会堂には、伊勢湾台風における救助・復旧に対する感謝の意が込められた、伊勢湾台風被災追憶之碑が残されています。



碑と向かい合う位置には遭難者慰霊地蔵尊が建立されており、遭難者の冥福を祈る気持ちも表されています。

● 慈眼寺（海嘯記念碑）

所在地：東海市荒尾町峯脇

交通：名鉄常滑線「新日鉄前」駅 北東 約 400m



海嘯とは海鳴りのことで、地震による津波や高潮を指します。この碑は、明治 22 年の高潮による被害を受けて建立された石碑です。明治 22 年の高潮では、堤防の決壊、海水の侵入などにより、小舟等の漂着、浸水被害が発生しています。



● 神明社

所在地：大府市神田町 交通：名鉄名古屋本線「豊明」駅 南西 約 1.7km

昭和 20（1945）年の三河地震により、鳥居、常夜灯が倒壊し、昭和 34 年の伊勢湾台風により社殿及び社務所が倒壊しています。その後、氏子の方々の熱意により復興しています。



◆詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をご覧ください。

★ 尾張横須賀まつり

尾張横須賀まつりは、毎年 9 月の第 4 土・日曜日に、愛宕神社の例祭として行われる祭りで、彫刻や刺繍に彩られた重さ 5 トンにもなる大きな山車が町内を曳き回されます。（2021 年は 9 月 25 日（土）、26 日（日））

祭りのみどころは「どんてん」と呼ばれる、山車を担いで勢よく回転させる儀式で、お囃子の音色と舞い上がる紙吹雪の中、担ぎ手が威勢良く声をあげて山車を回します。特に、山車を下ろさず、ぶつけずに回転させる「大どんてん」は最大の見せ場で、日曜日の本楽の夕方に盛大に行われます。



Aichi Now HP より

本楽の夜は夜祭りとして、山車には華やかに提灯が飾られ、神社周辺は多くの人で賑わいます。

あいちの農産物

愛知県は、洋らんの出荷量が全国の約 5 分の 1 を占め、一大産地となっています。代表的な品種のコチョウラン（胡蝶蘭）は、蝶が舞うような花の形からこう呼ばれ、開店祝いや結婚祝いに贈り物としてよく使われます。



愛知県園芸農産課 HP より

東海市は有数の生産地で、毎年 1 月第 4 土曜・日曜には市民体育館で花の祭典・東海フラワーショウが開催され、会場には鮮やかな洋らんがあふれ、多くの方が訪れます。

● ブレイクタイム ●

♪ 東海市の鉄

東海市の鉄鋼業は、昭和 14（1939）年に現在の愛知製鋼が進出したことに始まり、昭和 30 年頃になると、名古屋港で大規模な埋め立て事業が始まって、昭和 36 年に現在の日本製鉄が、翌 37 年には現在の大同特殊鋼が完成しました。市内には鉄を材料にしたアートがたくさんあります。

平成元（1989）年度には、鉄のまちとしての文化を発信するため、「鉄による都市彫刻大賞展」を開催、166 点の応募作品の中から選考された 10 点の彫刻が、市役所中庭に展示されています。



東海市 HP より

◆この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaian2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をぜひご覧ください。

（発行：減災の会・名古屋大学減災連携研究センター 2021 年 9 月）